

## 地理学 LD に関して

学生の皆さん、様々なコンテストで腕やスキルを磨きませんか。例えば、国関係の「地方創生政策アイデアコンテスト」はオープンデータの Resas を使用する条件です。また観光街づくりコンテスト、地域活性化コンテストなど誰でもが参加できるコンテストが今は山ほどあります。なぜ、こうしたコンテストを上げたかという、秋の授業は、アイデアの醸成を最終目的にしようかと思っているからです。日本の地理学は、近年は学際化、専門性が進展しているとも言えますが、地域、空間を対象として分析するという軸で課題発見や分析を中心とする基礎学問に近く、問題の解決を考えるのが主体の応用的な学問とはやや距離がありました。むしろ、応用専門性の近い都市工学や経済学などとの学際化の中で発展したともいえるかもしれません。この応用的な方向性を考え、「地域再生」を中心にアイデアの醸成を考えています。地域再生というと、1960年代の高度経済成長以降、地方から都市への人口移動のために、地方の過疎化がすすみ、大規模な国土計画が産業政策とも同時に行われましたが、国際分業などによる地方の産業の空洞化が進展し事実上困難になりました。また、都市計画などは欧米を中心に行われており、今でも持続可能な枠組みなどで進展しています。さて、限界集落や廃村など地方の問題もありますが、21世紀には大都市の郊外ニュータウンにも広がるとともに、東京一極集中はすでに他の大都市圏からの流入もおきています。こうした背景には1つは産業・雇用の要因もあります。また、同時に生じている少子高齢化、とりわけ地方の高齢化や大規模ニュータウンなどでは同様な高齢化の進展も生じています。このため、移住やワーケーションがコロナ下では話題になりましたが、世界的な GAF A さえオフィス勤務求めるなど、ITS の進展化の現在でもなかなか難しいのかもしれません。とはいえ、ハード型の都市計画的なモノよりもソフト的なアイデア中心の再生論を紹介しながら、プランニングを皆さんが考えていく授業にしたいと考えています。写真はメタバースを利用した山古志村の地域再生

<https://nftimes.jp/2022/11/yamakoshi-takeuchi/>

Kawasaki

<https://kawasakihalloween.com/fair.html>





## 2 成績評価のレポートに関して 都心の大学ならではの・・・見て実体験して考える

中間レポートはフィールドワークまではいきません。心配しなくてかまいません。昨年度は、秋葉原を同様にお願ひしました。いわゆる集積の理論と地域活性化の基礎、コミュニティ論、仮説検証などから説明しやすい地域だからです。最終レポートはこれを応用した理論的なモノも以前は出しましたし、一時期はツアープランも出したことがあります。

## 3 AL GD/GW に関して

一方的講義ではありません。とはいえ、グループのプレゼンをやってもらうわけではありません。ランダムにグルーピングして学年、男女を問わず、知り合いを作ること、コロナ下で孤独だったりした学生の居場所作りと考えてもらったほうが・・・最初は知らない人とはいやだと思ふかもしれませんが、最終目的は多様性、自分と異なる考え方の人もいることを理解できればと思っています。アメリカのスタンフォード大学の入試で「将来のルームメイトに手紙をかく（自己紹介）」という問題がありました。

<https://www.nhk.jp/p/ts/3MWXJL2V4J/episode/te/6646KYVJYP/>

本格的な GD/GW までには時間ありませんが、話したほうが眠くなりませんし、出会いがあります。これは担当の授業全部で類似したスタイルです。

追伸 (仮登録すれば見れるらしいので) 授業開始日までに、可能であれば動画等

で 授業支援システムに。

担当

前川明彦